

おだか

第20号

2014

平成26年11月12日(水)

南相馬市

小高小学校

学校だより

走るう会



低学年スタートのようす

11月に入り、暦の上では季節は冬になりました。寒暖の差が激しい毎日ですが、子どもたちは元気いっぱいです。5日(水)の「走るう会」では、日頃の練習の成果を、おじいさんやおばあさん、保護者のみなさんの前で十分発揮することができたようです。



高学年スタートのようす

1年生にとっては、はじめての長距離への挑戦。そして6年生にとっては、小学校最後の挑戦となります。短距離とは違って走る時間も長いため、走り続ける精神力も大切になります。それぞれの体力に合わせて、どこまでがんばるのかを自分で決めることになりますね。走り方で、子どもたちのそれぞれの個性が見えるような気がします。

保護者のみなさんの声援は、心のエネルギーとなって、練習以上の力を発揮した子どもたちもたくさんいました。子どもたちの体力はまだまだ満足すべき状態ではありませんが、自分に挑戦する気持ちを、どの子どももしっかり持っていることがわかった「走るう会」でした。

応援、子どもたちの観察などさまざまな面でご協力をいただき、本当にありがとうございました。

祖父母参観

おじいさん、おばあさんから見て現在の授業はどのような感想を持たれましたか。

私たちが小学校の時にはなかった新しい学習の一つが、「外国語活動」です。ALT(外国語指導助手)の先生と担任が一緒になって、

子どもたちに英語で伝えることの楽しさを学ばせます。「外国語活動」は、将来は「英語科」という教科になるかもしれません。

社会が変わり、パソコンや携帯などの器機がだれでも普通に持てるようになり、わたしたちの生活も変わってきました。これから、60年以上も先まで生きる子どもたちです。人と人とのつながりを大切にして、自分の望む生き方ができる学力を、時代に合わせて身につけていってほしいですね。



外国語活動の授業のようす

学習の状況

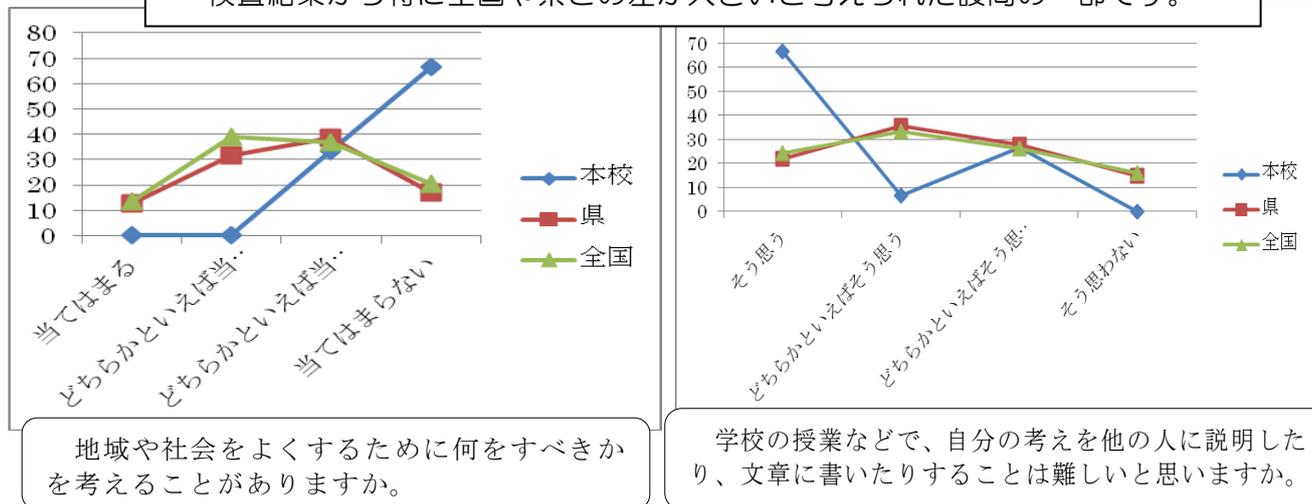
今回は、学習状況調査の結果についてお知らせします。学習状況調査は、子どもたちへの質問により、家庭での生活習慣や学習状況、授業に向かう姿勢などを調べるものです。

《学習の状況の結果》

全国、福島県と比較すると学習に対して受動的であり、将来の自己実現に向けて積極的に活動する意欲が低下しているという傾向がみうけられました。それは、以下のようなことから推察しました。

- ゲームに費やす時間が多いが、読書に費やす時間は少ないこと。
- 友達の前で自分の考えや意見を発表したりすることが苦手な子どもたちが多く、悩みがあった時に誰にも相談しないと回答した子どもたちが4割もいること。また、自分で計画を立てて学習していると回答した子どもたちが少ないこと。
- 自分のよさを認めてくれているという意識が低かったり、地域や社会への関心が低かったりすること。

検査結果から特に全国や県との差が大きいと考えられた設問の一部です。



これは、東日本大震災によって避難が長期化している影響と考えられます。

今後に向けて、子どもたちの学力を向上させるためには何が大切かを考えました。学校ができることは、学校生活及び授業の改善です。そこで以下の3つの方針を立て、見直しを図りました。

- ◆授業や学校生活の中で、自己有用感を育てること。(授業の中で、自分が大切にされていると感じること、どんな勉強をしているのか認知できるよう、めあてやまとめを明確に示すこと)
- ◆授業の中で、友達同士で話す場と時間を確保し、自分の考えを持たせ伝える活動を意識して設定すること
- ◆授業や学校生活の中で、将来に向けての具体的な見通しや展望を、子どもたちに問いかけながら意識させること(何のために、学習するのかを含めて)

この調査は、4月末のもので、その後長い時間が経っていますので、子どもたちの意識も変わってきているものと考えています。

11月後半は、授業に集中する時期になります。学んだことは、これからの自分を伸ばす基礎となり、社会に参画していく時の財産となることを、子どもたち自身が分かることが大切です。その上で、今を大切にして学び続けることが本当の生きる力になるものと信じ、今後取り組みを進めていきます。